

## 点検・評価報告書（短期大学部（船橋校舎））

### 基準 1 理念・目的

#### 1 現状分析

##### 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

<評価の視点>

- ・大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。
- ・理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。

① 学部等ホームページに、以下の項目を掲載し、社会に公表していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科ごとの教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。  
 一部の項目を掲載していない。  
 その他回答

② 履修要覧に、以下の項目を掲載し、学生に周知していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科の教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。  
 一部の項目を掲載していない。  
 その他回答

#### 2 長所・特色・問題点

##### 【長所・特色】

全国的にも希有の「理工系総合短期大学」として、理学及び工学それぞれの学問的特色を生かして人材の養成を行っている。その結果、各学科の教育研究上の目的に基づく積極的な学修への姿勢が身につく、学びをさらに深めるべく、4年制大学への編入学を希望する学生の割合の高さにつながっていることが長所及び特色である。

##### 【問題点】

社会の進展に伴い、理学及び工学系の学生が修得すべき知識及び技能が多様化する中、多くの理工系短期大学は四年制大学へ改組した。今後も理工系短期大学が社会的使命を十分に果たす組織として認知され、学生を確保していくことができるかが問題である。

## 基準 2 内部質保証

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

**内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。**

#### <評価の視点>

- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。
- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。

③ 学部等において、PDCAサイクルをどのように機能させているか、内部質保証体制（内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、各委員会組織、教授会、執行部会等の役割や関係性）や、活動内容について記述してください。

短期大学部（船橋校舎）における内部質保証体制は、日本大学内部質保証に関する方針に基づき、短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会、短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会、短期大学部（船橋校舎）教職員教育改善委員会及び短期大学部（船橋校舎）の教員が構成員として加わっている理工学部情報統括委員会で構成される。短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会を中心に、短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が、短期大学部（船橋校舎）における内部質保証の運用の適切性を点検・評価することを通じて、その結果を踏まえて必要がある場合は各委員会組織等に改善の指示をして改善に取り組む体制となる。このほか、内部質保証の実質的な実行組織である短期大学部（船橋校舎）学務委員会及び短期大学部（船橋校舎）教職員教育改善委員会等の各委員会組織レベルにおいて随時点検・評価を行い、必要な改善・向上を図っており、委員会組織レベルにおけるPDCAサイクルが機能している。なお、教授会及び執行部会において共有する必要がある場合は情報を共有する。

④ 三つの方針について、どの組織が、どのように検証しているか記述してください。

三つの方針の検証については、主に短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会と学務委員会及び各学科が中心となり、外部評価時における指摘等及び自己点検を通じて検証し、カリキュラム変更時等に、必要に応じて改正している。

⑤ 外部評価を実施（令和3年度から令和5年度までの期間）している場合、点検・評価項目を記述してください。

令和5年度の評価項目・評価事項は以下のとおりである。

- ① 教育課程・学習成果（ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー）
  - (1) 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

- (2) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
- (3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- (4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- (5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
- (6) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
- (7) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

② 学生の受け入れ（アドミッション・ポリシー）

- (1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
- (2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。
- (3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

⑥ 外部評価の結果、改善・向上に取り組んだ事項について記述してください。

外部評価の際に「表記の簡素化」を求められたため、令和7年度入学者用の「日本大学短期大学部（船橋校舎）入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」について、令和6年1月23日開催の短期大学部（船橋校舎）教授会で審議し、変更を行った。

⑦ 今後、外部評価、分野別評価、法科大学院認証評価、JABEE認定を受審する予定があれば記述してください。

令和6年度中に外部評価を実施する予定である。

⑧ 教育の質の向上を図るために、学生からの意見を取り入れていますか。取り入れている場合は、その内容を具体的に記述してください。

「授業改善のためのアンケート」を実施し、学生からの意見を収集している。令和5年度後学期分においては、授業に対する評価（シラバスに沿った授業進行、話し方、資料の適切さ、課題に対するフィードバック、授業の満足度）は3.6～5.0（満点）であり、平均4点以上と良好なものであった。

また、令和5年4月8日に実施した「令和5年度 第1回 短期大学部（船橋校舎）教職員研修会」には、専任教員全員を含む56名が参加した。ここでは「授業改善のためのアンケート」の現状についての説明に加えて、結果の活用事例を紹介し、意見交換及び今後のアンケートを活用した「授業の質の改善」に向けての討論を実施した。また、同研修会における報告内容を簡略化したものを「教育の質調査票アンケート」として本部に提出した。

日本大学の教育改善を目的として学生と教職員が共に議論する「日本大学 学生FD CHAmiT」には、令和4年度は4名、令和5年度は4名（いずれも各学科各学年1名）の学生が参加した。CHAmiTの実施後は、参加学生と教職員による協議会を開催している。

### 点検・評価項目②

大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。

<評価の視点>

- ・教育研究活動，自己点検・評価結果，財務，その他の諸活動の状況等を適切に公表し，社会に対する説明責任を果たしているか。
- ・教育研究活動の情報として，学生の学習実態，学習上の成果に関わる情報を社会に分かりやすく公表しているか。

⑨ 学部等ホームページに公表している学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に定める以下の教育情報は，最新の情報に更新されていますか。

- (1) 教育研究上の目的
- (2) 教育研究上の基本組織
- (3) 卒業の認定に関する方針
- (4) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (5) 入学者の受入れに関する方針
- (6) 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- (7) 入学者の数，収容定員及び在学する学生の数
- (8) 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
- (9) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
- (10) 成績評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- (11) 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境
- (12) 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用
- (13) 修学支援，生活支援，進路支援その他の学生支援

[自己評価]

- 全ての項目が更新されている。  
 一部の項目が更新されていない。  
 その他回答

### 点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取組を行っていること。

<評価の視点>

- ・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑩ 学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会による自己点検・評価のほか，各委員会組織

レベルにおいて、毎年度検証等を行い、改善・向上に取り組んでいる。

また、短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会の指示に基づき、短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が、学外者による外部評価を実施している。評価は、自己点検・評価報告書を基にした書面評価と面談を実施している。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

内部質保証活動の実質的な実施組織である各委員会及び学科において、教育のP D C Aサイクルが機能している。また、外部評価の実施により、学外者の意見を反映した改善を図るなど、柔軟な運営がされていることが長所及び特色である。

## 基準3 教育研究組織

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。

<評価の視点>

- ・大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮した上で、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。

#### 点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

⑫ 学問の動向や社会的要請等に対応すべく、学科や研究所の新設、学科の改組等、教育研究組織の見直しについて、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科の編成及び教育研究組織等については、主に短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会と学務委員会を中心として、適切性について定期的に検証している。また、必要に応じて企画調整委員会又は臨時の専門委員会を設置して検討し、学科長・主任会議での協議及び教授会の審議を経る。特に「教学組織の増設、改廃及び変更」を提起する場合には、学長裁定に定められた項目として学長への意見とするなど柔軟に対応している。

具体的には、入学試験実行委員会が作成する入学志願者の動向、社会的ニーズの変化及び学問の動向等を、年度ごとに理念・目的の検証と併せて諸会議において総合的に分析・検討し、改善の必要性が認められた場合は、改善策を策定している。

また、短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会及び短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会を中心に、「卒業認定・学位授与の方針」（D P）及び「教育課程編成・実施の方針」（C P）の検証及び外部評価者による検証を行っている。点検・評価結果については、各関連委員会へ報告し改善を実施している。特に教育組織の改組を行う場合は、学務委員会において案を作成する。

実際に令和4年度入学者選抜における、建築・生活デザイン学科の入学者数が入学定員を満たさず、同学科におけるA個別方式の受験者70名に対して合格者68名（追加合格4名を含む）の、いわゆる全入と呼ばれる状況下であったため、入学者の学力低下は否めない状況にあった。一方で、ものづくり・サイエンス総合学科においては、「情報科学分野」を開設している関係で、少子化傾向下においても、一定の志願者数を確保していた。

このため、令和4年12月20日開催の教授会において、令和6年度からの入学定員を建築・生活デザイン学科110名から102名に、ものづくり・サイエンス総合学科70名から78名に変更した。

このほか、併設の理工学部と共通の取組として、産官学連携研究の拠点形成に係る機能強化を図ることを目的とし、研究推進戦略委員会における検討を経て、令和4年度から理工学研究所に研究支援センターを設置した。学部内公募により、受託・共同研究を実施する研究者に研究スタジオ（2居室）を供し研究活動の促進に寄与している。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

短期大学部（船橋校舎）は併設する理工学部への3年次編入学を主な進路として運営されていることもあり、理工学部と学問分野が近い学科があり、共同研究の実施など学部の研究組織と併せて有機的な運用を図っていることが特色である。

また、理工学研究所研究支援センターは、その利用を受託・共同研究の実施に特化することにより、産官学連携研究の更なる充実が期待できる。

## 基準4 教育・学習

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的な在り方を示していること。

<評価の視点>

- ・卒業の認定に関する方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成及び実施に関する方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。
- ・上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

[卒業の認定に関する方針について]（学士課程）

⑬ 授与する学位ごとに定めていますか。

[自己評価]

■定めている。

<input type="checkbox"/> 定めていない。 <input type="checkbox"/> その他回答
<p>⑭ 日本大学教育憲章の「自主創造」の8つの能力との関連性が明確ですか。</p> <p>[自己評価]  <input checked="" type="checkbox"/> 明確である。  <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。  <input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>⑮ 「学生が修得すべき知識」、「技能」、「態度」等、当該学位にふさわしい学習成果を示していますか。</p> <p>[自己評価]  <input checked="" type="checkbox"/> 示している。  <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。  <input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>⑯ 能力（コンピテンシー）の表現は、「～できる」又は「～を身に付ける」に統一されていますか。</p> <p>[自己評価]  <input checked="" type="checkbox"/> 統一されている。  <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。  <input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>⑰ 「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質、能力の目標（学修成果）が明確化されていますか。</p> <p>[自己評価]  <input checked="" type="checkbox"/> 明確化されている。  <input type="checkbox"/> 見直す必要がある。  <input type="checkbox"/> その他回答</p>
<p>⑱ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。</p> <p>[自己評価]  <input type="checkbox"/> なっている。  <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある。</p> <p>令和2年3月17日開催の教授会において、学科ごとに独自の表記とならないように留意しつつ、平易な語句への変更及び中央教育審議会大学分科会の「教学マネジメント指針」に合わせた表記とした。しかしながら、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「学修成果の評価に関する方針」を同一資料に掲載しているため、2学科で計6ページとなっており、項目数が多い部分がある。そのため、最短で令和8年度に予定しているカリキュラム変更に合わせて、内容を維持しつつ簡素化について検討を開始する。</p> <input type="checkbox"/> その他回答

[教育課程の編成及び実施に関する方針について] (学士課程)

⑱ 授与する学位ごとに定めていますか。

[自己評価]

定めている。

定めていない。

その他回答

⑲ 卒業の認定に関する方針との関連性が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

⑳ 卒業の認定に関する方針に基づき、「教育課程の体系」、「教育内容」、「教育課程を構成する授業科目区分」、「授業形態」、「学修成果の評価」を示していますか。

[自己評価]

示している

見直す必要がある

その他回答

㉑ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

なっている。

見直す必要がある。

令和2年3月17日開催の教授会において、学科ごとに独自の表記とならないように留意しつつ、平易な語句への変更及び中央教育審議会大学分科会の「教学マネジメント指針」に合わせた表記とした。しかしながら、「卒業の認定に関する方針」及び「学修成果の評価に関する方針」を同一資料に掲載しているため、2学科で計6ページとなっており、項目数が多い部分がある。また、令和5年度実施の外部評価において、問題点・今後の課題として「教育課程や学習効果の把握評価については膨大な情報を選別してより一層分かりやすく学生や関係者に情報公開することに改善の余地があるように思われる」と挙げられている。これらのことから、最短で令和8年度に予定しているカリキュラム変更に合わせて、内容を維持しつつ簡素化について検討を開始する。

その他回答

**点検・評価項目②**

**学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。**

<評価の視点>

・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成及び実施に関する方針に沿って授業科目を

開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

③⑩ 各授業科目は、授与する学位（又は、課程・専攻）と整合していますか。

[自己評価]

- 整合している。  
 見直す必要がある。  
 その他回答

③⑪ 各授業科目は、体系的に編成されていますか。

[自己評価]

- 編成されている。  
 見直す必要がある。  
 その他回答

③⑫ 各授業科目の到達目標が、シラバスに明示されていますか。

[自己評価]

- 明示されている。  
 見直す必要がある。  
 その他回答

③⑬ 各授業科目は、学習時間を考慮し、授業期間及び単位が設定されていますか。

[自己評価]

- 設定されている。  
 見直す必要がある。  
 その他回答

### 点検・評価項目③

課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

<評価の視点>

- ・ 授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成及び実施に関する方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。
- ・ 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。

③⑭ 学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性を踏まえた対応をしていますか。

[自己評価]

- 対応している。

見直す必要がある。

その他回答

③⑤ シラバスは、学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容ですか。

[自己評価]

■十分である。

見直す必要がある。

その他回答

③⑥ 学生が意欲的かつ効果的に学習できるように、以下の項目について取り組んでいますか。

(1) 授業の履修に関する指導

(2) 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認

(3) 授業外学習に資するフィードバック

[自己評価]

■全ての項目について取り組んでいる。

一部の項目について取り組んでいない。

上記以外の事項について取り組んでいる。

その他回答

#### 点検・評価項目④

**成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。**

<評価の視点>

- ・成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。
- ・成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。
- ・既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。
- ・学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。
- ・卒業の認定に関する方針に則して、適切に学位を授与しているか。

③⑦ 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。

[自己評価]

■実施している。

見直す必要がある。

その他回答

③⑧ 成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。

[自己評価]

■明示している。

見直す必要がある。

その他回答

③⑨ 既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を、客観的かつ厳格で、公正、公平に行っていますか。

[自己評価]

行っている。

見直す必要がある。

その他回答

④⑩ 学位授与における実施手続及び体制が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

#### 点検・評価項目⑤

卒業の認定に関する方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

<評価の視点>

- ・学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。
- ・学習成果を把握・評価する指標や方法は、卒業の認定に関する方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。
- ・指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、学部として設定する目的に応じた活用を図っているか。

④⑩ 学習成果を把握・評価する目的や指標、方法について記述してください。

アセスメント・プランとして、各学科で次のとおり「学修成果の評価に関する方針」を定めている。

##### ① 建築・生活デザイン学科

- (1) 各授業科目の成績評価は、理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価に基づき、シラバスに明示する「学修到達目標」及び「成績評価の方法・基準」に従って、学修到達目標に対する学修到達度を判定する。
- (2) 2年前学期終了時に、各主専攻分野の関連授業科目の学修を通じて修得した基本的な知識・理解及びものの考え方について、その修得レベルを判定するためのアセスメント・テストとして「達成度評価試験」を実施する。
- (3) 2年間の学修成果は、「卒業研究」(必修)として実施する「卒業論文ないしは卒業設計」の成果物ならびにそのプレゼンテーション(口頭発表)の成果に基づき総合的に評価を行う。

##### ② ものづくり・サイエンス総合学科

- (1) 各授業科目の成績評価は、理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価に基づき、シラバスに明示する「学修到達目標」及び「成績評価の方法・基準」に従って、学修到達目標に対する学修到達度を判定する。
- (2) 各主専攻分野の基幹教育系列科目の学修を通じて修得した基本的な知識・理解及びものの考え方について、「総合ゼミナール」(必修)の一部として「卒業達成度評価試験」(アセスメント・テスト)を行い、その修得レベルを判定する。
- (3) 2年間の学修成果は、「総合ゼミナール」(必修)、「卒業研究」(必修)及び「卒業研究発表」の成果に基づき、段階的かつ総合的に判定する。

④ 上記指標や方法を用いて把握・評価した学習成果を、学部等でどのように活用しているか記述してください。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)及び学生への学修指導並びにカリキュラムの再検討に活用している。

また、「日本大学教育憲章ルーブリック」を受けて、「短期大学部(船橋校舎)ルーブリック」を令和元年12月6日開催の教授会にて制定し、ホームページで公開している。

短期大学部(船橋校舎)「科目ルーブリック」の作成については、令和4年10月7日開催の学務委員会から協議を開始し、検討中である。

#### 点検・評価項目⑥

**教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。
- ・課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。
- ・自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。

⑤ 教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等について記述してください。

教育課程の見直しは、基本的に現行の教育課程の完成年度が契機となる。直近3回分では、令和4年度、令和2年度及び令和元年度に教育課程を変更した。なお、次回の見直しについては、併設の理工学部において教育課程の変更予定があるため、同時進行とする。

学務委員会において、教育課程完成年度までの各学科・一般教育における検証結果を基に、日本大学教育憲章、「卒業認定・学位授与の方針」(DP)及び「教育課程編成・実施の方針」(CP)並びに教育研究上の目的を踏まえた分析を行うだけでなく、卒業生の約7割が4年制大学に編入学をしているという学生のニーズに応えるため、可能な限り3年次編入学をし、その後2年間で卒業できるような教育課程とすべく、各学科・一般教育で分析を行っている。

また、卒業延期者削減及び就職希望者への対応も考慮し、検討をしている。

教育課程の変更案については、学務委員会、学科長・主任会議、教授会の審議を経て大学本部に内申している。

㉔ 点検・評価するに当たり、学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報をどのように活用しているか記述してください。

令和6年度には卒業生144名中76名が併設の理工学部へ編入学した。これは、短期大学部（船橋校舎）における学生募集戦略において重要な要素となっている。

また、教授会において、理工学部への編入学の状況を報告し、2年次編入学となった者の短期大学部（船橋校舎）在籍時の単位修得状況について確認を行っている。

㉕ 教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に当たり、自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

基準4については、ほぼ全ての項目について前回及び今回の自己点検・評価報告時点で対応済みである。

ただし、「㉔成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。」については、学内専用ポータルサイトへの掲載及び在学生に対する電子メール送信で周知を行っているのみで、ホームページでの公表及び配布冊子等に記載していないため、令和7年度から、全学生に配布の上、履修要覧「キャンパスライフ」（ホームページ掲載）に記載する。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

日本大学教育憲章に示される日本大学マインド及び自主創造の構成要素の8つの能力に関する達成度について、ルーブリックで示している。また、学科ごとに「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・プラン）」を制定し、卒業の認定に関する方針に示す能力の達成度について、卒業研究及び学科独自のアセスメント・テスト等各学科が定める方法により段階的かつ総合的に判定している。また、入学時から学生の基礎学力の向上に重点的に取り組みつつ、初年次教育やゼミナール及び卒業研究の活用による、分野別専門教育の質保証及び卒業認定における評価の厳格化を図っている。

### 【問題点】

教育課程及び学習成果の適切性に向けた取組について、短期大学部は、併設する学部に合わせて実施されることが多いことから、同じ短期大学部であっても、校舎により、各施策の進捗が異なることが多く見受けられる。

## 基準5 学生の受け入れ

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

入学者の受け入れに関する方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

#### <評価の視点>

・入学者の受け入れに関する方針は、学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学

位課程)に設定しているか。

- ・入学者の受入れに関する方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・入学者の受入れに関する方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。
- ・入学者選抜に当たり、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・全ての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

⑤4 入学者の受入れに関する方針を学位課程ごと(学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程)に設定していますか。

[自己評価]

- 設定している。
- 設定していない。
- その他回答

⑤5 入学者の受入れに関する方針には、卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」、「学力水準」、「能力等の求める学生像」及び「入学希望者に求める水準等の判定方法」を志願者等に理解しやすく示していますか。

[自己評価]

- 示している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

⑤6 入学者選抜を、体制・仕組みに基づき公平、公正に実施していますか。

[自己評価]

- 実施している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

⑤7 入学者選抜に当たり、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。

[自己評価]

- 整備している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

### 点検・評価項目②

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

<評価の視点>

- ・学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維

持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

大学基礎データ（表2）

学部・学科等名称	入学定員充足率の5年平均 (令和2年度～令和6年度)	収容定員充足率 (令和6年度)
短期大学部建築・生活デザイン学科	1.00	0.94
短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科	0.99	0.84

㉞ 「大学基準協会の評価の指針」により、定員超過あるいは定員未充足の場合は、どのような対策をとっているか記述してください。

令和6年度の入学定員・入学者数については、ものづくり・サイエンス総合学科78名中44名となり、同学科の令和6年度収容定員充足率が0.84（定員未充足）となった。18歳人口の減少に加えて、昨今の本学における不祥事の報道の影響及び併設の理工学部との令和6年度入学者が入学定員2,030名を超え、2,238名であったことが影響しているものと考えられる。

短期大学部（船橋校舎）の入学者数は、同じく工学及び理学関係の4年制大学である、併設の理工学部の入学者数の影響を強く受ける状況にある。このことから、理工学部の入学定員管理の厳格化に伴い、短期大学部（船橋校舎）の入学希望者が増加するものと推察される。また、併せて高校訪問の実施、パンフレットの送付及びオープンキャンパス等での周知により、定員を充足できるよう対応をしている。

さらに、令和8年度入学者選抜から一般選抜N方式第2期及び総合型選抜の導入並びに一般選抜A個別方式の理工学部との合同実施に向けた検討を行っている。

### 点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

㉟ 学生の受け入れに関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

入学者選抜制度、入学者選抜実施及び合格判定については入学試験実行委員会が中心となり学科長・主任会議（ただし、合格判定を除く）を経て教授会で最終決定しており、適切に入学者選抜を運営している。また、入学試験実行委員会は毎年の入学者選抜結果について分析を行い、教授会等において報告を行っている。この分析を基に、毎年の学生募集方法及び入学者選抜制度の検証を行っている。各入学者選抜の科目・配点等は、前年度中に入学試験実行委員会において原案を作成し、学科長・主任会議での協議を経て、最終案を教授会で審議している。

この配点に基づき、学科ごとに得点順の判定資料を作成し、教授会において、各学科長が合格者数を提案の上、合格判定を行っている。

教授会の合格判定資料には、順位、受験番号、各選抜方法における得点及び合計点のみが記載され、氏名及び性別等は記載しておらず、教授会終了後に回収している。

また、追加合格の実施については、事前に教授会で実施方針について決定するほか、「短期大学部（船橋校舎）における追加合格の取扱い申合せ」及び「短期大学部（船橋校舎）一般入学者選抜追加合格候補者に対する電話連絡に関する申合せ」に基づく対応を行い、透明性を確保している。

これらの他、試験問題の配付や入学試験の解答の公開を行うことで入学者選抜の透明性を担保している。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

毎年の入学者選抜結果に基づく分析及び入学者選抜方法等の検討を行う「入学試験実行委員会」と入学定員変更等について検討を行う学務委員会が連携しながら改革を行っていることが挙げられる。

各学科では、教育課程や取得可能な資格等の特色をアピールしながら、就職を希望する学生だけでなく、卒業後に4年制大学への編入学を志す学生にとっても魅力的な進路として選択してもらえるよう、学生募集活動をしている。

### 【問題点】

入学定員管理の難しさが挙げられる。定員数が少ない短期大学部では、入学者が1名辞退することで充足率が1%程度減ることになるなど、入学定員の管理が難しい。理工学部又は他学部との併願合格者において入学手続後の転出入があるが、この事象については予測が困難である。また、令和2年度から本短期大学部での学びを希望する受験者のニーズに応え、一般入学者選抜において併願制度を取り入れたが、これと追加合格制度の並立も、入学定員管理を難しくする要因となっている。

少子化の影響から、短期大学の学生募集については本学に限らず近年厳しい状況が続いているのが現実である。本学でも入学定員の見直しや学科の統廃合、各選抜制度や募集人員の見直しを図っているが、受験生への周知の性質上、入学者選抜内容の変更については、次々年度からの実施とならざるを得ない。

## 基準6 教員・教員組織

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

#### <評価の視点>

- ・「学部等教員組織編制方針」に基づき、教員組織を編制しているか。
  - ▶専任教員数の遵守、教員の構成
  - ▶教育効果に配慮したクラス編成、専任教員の授業負担への配慮

<ul style="list-style-type: none"> <li>▶教員の適切な役割分担及び責任の所在の明確化</li> <li>▶教員の資質向上</li> <li>▶その他、学部等として重視するポイント</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。</li> <li>・TA、SA又はGSAを置いている場合、ガイダンスや研修を実施した上で業務をさせているか。</li> </ul>
--

<p>(学士課程)</p> <p>⑥0 学部・各学科における専任教員数は、設置基準を満たしていますか。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全ての学科において満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部の学科において満たしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> その他回答</p>
---

<p>(学士課程)</p> <p>⑥1 学部・各学科における教授数は、設置基準を満たしていますか。</p> <p>[自己評価]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全ての学科において満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部の学科において満たしていない。</p> <p><input type="checkbox"/> その他回答</p>
---

<p>⑥7 特定の教員に過度な授業負担が生じないように、どのように配慮しているか記述してください。</p> <p>授業時間割編成において特定の教員に過度な負担が生じないように配慮している。また、担当形態をオムニバスとしている授業科目については、担当回数を調整するなどしている。</p>
--

<p>⑥8 教育研究活動を実現するために、教員と職員とがどのように役割分担をし、それぞれの責任を明確にし、協働・連携しているか記述してください。</p> <p>併設の理工学部と共通の取組として、外部資金の応募において、事務局で、申請書類の記載事項の事務的な確認を行い、教員（研究者）が、研究内容の記載に重点をおくことができるように支援しているが、特に科学研究費助成事業の応募においては、事務的な項目以外においても記載項目・条件が多岐・多量であるため、希望する教員については、研究内容に係る記載項目に関して、記載すべき条件の網羅という観点から事務局でチェックする支援をしている。このように、外部資金獲得という共通の目的において協働・連携作業を実施している。</p>
---

<p>⑥9 TA、SA又はGSAを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。</p> <p>TAは、特に集合形式のガイダンスや研修は実施していないが、TAに従事する学生に「ティーチング・アシスタント(TA)の心得」を配布し、TA業務について十分に理解した上で業務を行うように徹底している。業務内容は理工学部及び短期大学部（船橋校舎）の学生に対する助言や実験・演習等の補助業務を主としている。</p>
---

S A及びG S Aは、置いていない。

### 点検・評価項目②

**教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。**

<評価の視点>

- ・教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。
- ・年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。

⑦ 教員を採用するに当たり、どのような方法（公募等）で募集しているか記述してください。

募集方法については、各学科に委ねられており、HPや独立行政法人科学技術振興機構の研究者人材データベースや学会により、公募情報を掲載し募集を行っている。

⑧ 「教員の募集」、「教員の採用」及び「教員の昇任」について、明文化された基準及び手続に従い公正に行っていますか。

[自己評価]

公正に行っている。

基準や手続き方法を見直す必要がある。

その他回答

⑨ 教員の年齢構成に著しい偏りがないように、どのように取り組んでいるか記述してください。

毎年6月に、各学科から次年度の教員人事計画を学部へ提出し、教員人事委員会が教員の年齢構成を含めその可否を検討し、検討結果を学科に伝えたのち、各学科が募集活動等を開始することとしている。ただし、人数規模が小さいため、時により年齢構成に偏りが生じることもある。

⑩ 教員の男女比に著しい偏りがないように、どのように取り組んでいるか記述してください。

毎年6月に、各学科から次年度の教員人事計画を学部へ提出し、教員人事委員会が状況によっては教員の男女比を含めて検討し、検討結果を学科に伝えたのち、各学科が募集活動等を開始することとしている。ただし、理工系の女性研究者の少なさから、学科に女性教員の獲得を促したり、学科が女性教員の獲得を目指していたりしても、採用に至らないことも多い。

### 点検・評価項目③

**教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取組を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。**

<評価の視点>

- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取組を行い、成果を得ているか。

- ・教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取組を行い、成果を得ているか。
- ・大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。

⑦⑤ 教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

短期大学部（船橋校舎）教職員教育改善委員会で研修会を実施しているほか，授業改善のためのアンケートの実施等について審議している。

これらの取組により，令和5年度後学期に実施した授業改善のためのアンケートでは，授業に関する設問（5段階評価）の大半で回答の平均が4点以上であり，改善の余地もあるがおおむねの項目で良好となっている。

⑦⑥ 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために，どの組織が，どのように取り組み，その結果どのような成果を得ているか記述してください。

教員の昇格等における評価基準において，「研究貢献」，「教育貢献」及び「学内・社会貢献」をポイント化し，教員資格審査委員会及び教授会の審査において確認している。これらの基準をクリアしなければ昇格や定年退職後の特任教授委嘱が認められないため，一定程度の効果があるものと思料している。

また，教員の教育活動，研究活動及び社会活動等の活性化を図る取組として，本部による全学的な取組に即して，専任教員は，「日本大学研究者情報システム」及び国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立情報学研究所が運営する研究者総覧「researchmap」への情報提供を通して，研究活動，社会活動等の学内外への発信を実施している。

⑦⑦ 教員の教育活動，研究活動，社会活動等に関する業績について，どの組織が，どのように評価しているか記述してください。

教員の昇格等における評価基準において，「研究貢献」，「教育貢献」及び「学内・社会貢献」が3つの大項目として定められ，さらにそのそれぞれに2～5の中項目を定め，学科により増減はあるが30以上の小項目それぞれについて基準点数を定め，教員の功績を論文数だけではない視点から把握できるようにしている。これらの結果を記載したワークシートを，教員資格審査の資料として教員資格審査委員会及び教授会で使用している。

また，日本大学研究者情報システムの運用により，研究活動における社会連携・社会貢献に係る情報を幅広く発信することで，学内外の評価に係る情報を提供する場としての整備がなされている。

#### 点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組む，効果的な取

組へとつなげているか。

㊦ 教員組織に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員人事委員会が毎年度学科ごとに人事計画の確認を行っている。短期大学設置基準に定める教員数を満たしているか、年齢構成バランスは適切か、専門分野別・職位別・男女別人数は適切か等の観点から点検・評価をしている。その結果を踏まえ、理工学部専任教員との人事交流を目的とした勤務替を行っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

教員の採用及び昇格に当たっての手續は、理工学部教員資格審査に関する内規により明確化されており、「教員規程」及び「理工学部教員資格審査に関する内規」に加え、「理工学部教員評価基準」で教育者・研究者として必要な能力を表して審査している点は、長所ないし特色と思料する。

### 【問題点】

教員の能力や資質を全て数値化することは難しく、これらの基準が最低基準でしかない点やそれにもかかわらず100以上の記入箇所があることから簡素化を含めた検討が必要と思料する。

## 基準7 学生支援

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

#### <評価の視点>

- ・学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。
- ・各種の学生支援に当たり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。
- ・学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。

#### [修学支援（学習面）]

- ・学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。
- ・障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。

#### [修学支援（経済面）]

- ・学生に対する経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等）を、学生の実態等

に応じて行っているか。

[生活支援]

- ・学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。
- ・学生の孤立を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。

[進路支援]

- ・各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程等）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。

[その他支援]

- ・上記のほか、部活動・ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援等、必要に応じた支援を行っているか。

[学生の基本的人権の保障]

- ・ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組を行っているか。

[修学支援（学習面）]

㉞ 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるように、どのようにサポートしているか記述してください（補習教育、補充教育、学習に関わる相談）。

他授業科目の補充教育及び4年制大学への編入学を希望する学生にとっては進学先での専門教育科目の履修に必要な基礎学力向上を目的として「補充教育科目」を開設している。履修対象者は、合格者に対して行っている入学前課題の結果や新入生に対して前学期ガイダンス時期に実施している「学力調査」の結果、成績が芳しくなかった学生や他大学への進路を考えている学生となっている。

また、学習に関する相談や授業の一層の理解を図るため、「パワーアップセンター」を設置している。船橋校舎では、英語・数学・物理・化学に不安や苦手意識のある学生向けに「基礎講座」、「個別指導」及び外国人講師による英会話サロン「English Lounge」を設置している。

障がいのある学生に対する修学支援として、「試験時間延長を必要とする特別配慮対象者への対応指針について」を令和5年5月23日開催の教授会にて審議の上、試験時間延長のため、別室での受験を実施している。このほか、学生課（学生支援室）で「関係者カンファレンス」を実施している。教務課員も出席し、授業欠席時の課題提出での対応や追試験手続期間延長等について対応をしている。

㉟ 留年者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

留年者については、「成績不振者の選定基準及び個別指導の実施方法に関する申合せ」の対象者としているため、各学科からの対象者名簿の提出を受けて父母面談を実施し、面談結果を教授会で報告している。

また、グループ担任制度は、「短期大学部（船橋校舎）学修指導に関する内規」により運用するもので、全教員が少人数のグループに分かれた学生を担当することにより、従来のクラス担任制度を補完し、履修、修学、学生生活、進路及び職業選択等に関する助言・指導を組織的に行う仕組みであり、留年者についても各グループに所属し、他学生と同様に対応している。

㉑ 退学希望者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

学生が退学願を提出する際には、クラス担任等と面談等を実施している。面談後は、面談者（主にクラス担任）が、その内容を退学願裏面に記載し、学科長の確認を経てから教務課へ提出するようになっている。また、退学希望者の情報は、学務委員会委員長と学生課長にも共有をしている。

㉒ 留年者や退学希望者の減少に向けて、どのように取り組んでいるか記述してください。

留年者数は、ここ数年で増加傾向となっており、毎年10名を超える卒業延期者が発生し続けている。原因の一つとして休学が挙げられる。卒業延期者のうち、2割から4割は休学歴のある学生が占めており休学者数の減少が好影響を及ぼすことは明白であり、個々の事情をクラス担任等が面談で確認して可能な限りの対応をしているが、休学事由が心神耗弱や経済的困窮など多岐にわたり、効果的な対策を講じることは非常に難しいのが現状である。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校時代にオンラインで授業を受講していた学生が、実験・実習科目への対応がスムーズに行かなかったという例が見られる。短期大学の2年間という短い在学期間においては、こういった学生が適応をするための時間的な余裕がなく、未だに影響が残っている。

「学力不足」を要因とした卒業延期者の減少に向けて、推薦選抜等の合格者に対しては「入学前課題（数学）」及び「入学前講座（数学）」を実施している。

また、新入生に対して前学期ガイダンス時期に実施している「学力調査」の結果、成績が芳しくなかった学生に対しては、「リメディアル科目（数学・物理）」を履修するよう指導を行っている。

さらに、「パワーアップセンター」を設置し、英語・数学・物理学・化学の基礎講座や個別指導を実施している。

基礎学力不足の学生に対しては、グループ担任が一人一人に合った無理のない履修指導を実施するとともに保証人・本人と相談するなどしている。

これらの他、卒業延期者の減少を目的として再評価を実施している。対象授業科目は、全学共通教育科目、総合教育科目及び専門教育科目の40点以上の授業科目で、学科が定める要件に該当することとしており、対象の学生に対して当該授業期間終了後直ちに十分な学修指導を実施した上、テストその他の適切な方法によって評価するものである。

再評価の実施により、令和元年度4名、令和2年度10名、令和3年度10名、令和4年度12名、令和5年度10名が卒業に至り、卒業延期者数の減少に一定の効果을上げている。

休学及び退学者並びに卒業延期者減少の共通の方策として、「成績不振者の選定基準及び個別指導の実施方法に関する申合せ」の選定基準（学科共通基準：累積GPA1.00以下、卒業見込・卒業要件未充足等）及び学科別基準（必修科目・学科指定科目未修得、欠席回数3回以上）に基づいて抽出した成績不振者に対する父母面談を9月と3月に実施している（卒業延期者については3月）。これにより学修に不安のある学生については、早い時期に指導又は家庭内でのサポートが実施されるなどの効果がある。

#### [修学支援（経済面）]

㉓ 学生に対して、経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援を除く）をどのように行っているか記述してください。

公益財団法人日本国際教育支援協会が運営する「学生教育研究災害傷害保険」に、全学生を対象に一括で加入している。当該保険では、正課（講義、実験、実習、演習、実技）、学校行事、課外活動、通学中及びインターンシップ等において発生した偶発的な事故による学生本人の死亡又は怪我、他人に怪我を負わせた場合又は他人の財物を損壊した場合等における賠償責任についても、その補償対象としている。

工学系教育では、大型の実験機器を使用するなどの安全配慮が必要な実験、併設の理工学部駿河台校舎への移動や学外での調査研究も多く、参加時に加入が求められることが多いインターンシップにおける補償も充実させて、経済的に安心して修学できる環境となっている。

また、学内の購買部にて、一般文具、雑貨に加えて設計製図に用いる専門用具及び模型作成に必要な部材等を市場価格から2割程度安価で販売し修学に係る経済的支援としている。

### [生活支援]

㊦ 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）をどのように行っているか記述してください。

学科・学年別にクラスを設定し、その担任教員を設置している。担任を中心とした学期ごとのガイダンスや上級学年におけるゼミナール、研究室をはじめとして、修学上の相談を含めた日々のフォローアップを行っている。学内の各種運動施設を利用したスポーツ大会等のレクリエーションやセミナーハウスを利用した合宿、研修も実施しており、学生の孤立化を防止し、人間関係構築につながる交流機会を提供している。

運動、文化及び学術系などの多様な学生団体（サークル）の活動について、新入生勧誘の機会、部室等の施設提供及び活動費補助により奨励し、学生自身の趣味や能力、学業との関係を踏まえながら、豊かな人間関係を構築するための機会を提供している。

また、保健室及び学生支援室において、内科及び精神科の医師、看護師、カウンセラー（臨床心理士、公認心理師）及び学科からの相談員を配置して心身の健康及び保健衛生等の指導及び相談に対応している。保健室及び学生支援室については、併設の理工学部（駿河台校舎）に設置されているものも利用でき、学生のニーズに合わせた利用が可能となっている。開室時間は、平日日中に加えて保健室については実験等の怪我も多いため土曜日午前も対応を行っている。

健康診断受診時には、通常の健診項目に加えて「日本大学メンタルヘルスチェック（K6）」を受診させ、リスクが高いと判断された学生については学生支援室でのカウンセリング等を促すなどのフォローを実施している。

### [進路支援]

㊧ キャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援をどのように行っているか記述してください。

船橋校舎キャリア支援センターを設置し、学生のキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援に対応する体制を整えている。また、個別相談コーナー（模擬面接含む）を対面及びオンラインで設置しており、Web予約を可能とする等、多忙な理系学生への利便性を確保している。また、令和元年度から、就職指導課特設Webサイト（就職担当の教職員及び在学生のみ閲覧可能なグーグルクラスルーム）を通じて、学生がいつでも、どこでも就職・キャリア支援のコン

テンツにアクセスできるサイトの運用を開始した。各種ガイダンスのオンデマンド配信、資料の公開及び学部ポータルサイトからのお知らせと連携（リンク）によって、情報の認識・利便性向上に努めている。

また、ガイダンス等については、1年次よりキャリア意識醸成や就職活動支援のため多様な施策、理系・技術職特化の就職・キャリア支援プログラムを提供している。他に、例年、卒業生の約8割が4年制大学へ編入学するため、3年次編入学後に就職活動をする学生向けの講座や短期大学部卒業後に就職を希望する学生向けの講座を開講している。

#### [その他支援]

⑥ 正課外における部活動・ボランティア活動等の学生の活動について、どのように活性化を図っているか記述してください。

短期大学部（船橋校舎）における課外活動の主体となる学生団体（サークル）には、本格的なレース活動を行う自動車部や鳥人間コンテストへ出場している航空研究会や学生フォーミュラーカー選手権に出場している円陣会等の多種の団体があり、授業や実験で得られた知識や技術を深化させ、チームワークを育むことができるエンジニアの育成に有益な活動が活発に行われていることが特色となっている。

学生団体の活動実績に応じてサークル室の提供、大会参加費や消耗品費等の活動経費に対する補助の実施や顕著な社会貢献活動や大学の名誉を高揚するなど有益な活動と評価された場合は、大会等の成績に応じて特別補助金を支給する制度を設け課外活動の活性化を図っている。

#### [学生の基本的人権の保障]

⑦ ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組について記述してください。

学生からの相談対応の基本的な態度、考え方などを修得するために本学の学生相談研修会を受講する、「日本大学インターカー制度」への参加を促している。学生支援室には、インターカー認定者を相談員として配置し、学修上の各種問題についての相談に対応している。

初年次教育の授業時間において、学生保健委員会が制作したテキストを参考に「学生生活の安全・健康について」の講義を行っている。内容は、各種ハラスメントの防止、プライバシー権の保障及び苦情等の相談窓口の周知を含めた内容となっている。

教職員を対象に近年の学生の動向等を理解するために、学識者や学生支援室カウンセラーを講師に迎え、学生支援の事例紹介を交えた学生理解講座（オンライン配信含む）を開催することにより、学生理解の深化と学生対応の改善に取り組んでいる。

#### 点検・評価項目②

**学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取

## 組へとつなげているか。

㊦ 学生支援に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生保健委員会で、学部内の傷害事故等調査委員会にて報告された実験中に発生した傷害事故における原因を究明し、対策案を検討及び審議して、各学科に共有し、改めて注意喚起を行う契機とするなど、事故防止に向けて取り組んでいる。

毎年4月に実施する「日本大学メンタルヘルスチェック」においては、結果数値や分布傾向等を把握し、リスクが高いと思われる学生への対応について検討を行い、リスクが高いと判断された学生については学生支援室でのカウンセリング等を促すなどのフォローを実施している。

前述の本委員会でテキストを作成した初年次教育における「学生生活の安全・健康学」の講義では、各学科に実施状況を確認し、受講後の理解度を測るための小テストの実施や担当した教員へのアンケートを行い、改善内容等を検討し、次年度のテキストを改訂している。

学生生活委員会で、学生団体（サークル）の活動実績に応じ、昇格・降格・継続、廃部や活動補助金支給の審議を行っている。また、学部祭（桜理祭）の運営に当たっては、学生の実行委員会代表者と学生生活委員会による桜理祭協議会を開催し、実行委員会の企画内容を確認、審議の上、学部祭（桜理祭）の実施に向けて取り組んでいる。

このほか、キャリア支援については、就職指導委員会で、採用活動の動向及び公務員採用試験の動向等を踏まえつつ、訪問企業からのヒアリングに基づく本校舎学生への期待度や学生相談から得られる学生の動向等に基づき点検を行い、その適応度による評価をしている。当該評価により、講座内容や学生対応について協議し、キャリア支援に関する改善・向上を図っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

学生生活における長所・特色として、学生支援室において、保健室と一体となって内科医、精神科医を配置し、週5日間、大学本部から派遣された専門カウンセラー（臨床心理士、公認心理師）が相談に応じているだけでなく、日本大学インターカールの認定を受けた各学科の専任教員が修学上の相談にも対応している。医師、カウンセラー、専任教員が相互に連携して学生の支援に対応していることが特色となっている。また、併設の理工学部（駿河台校舎）の保健室及び学生支援室を短期大学部（船橋校舎）の学生が利用できるようにしてあり、学生が自身のニーズに合わせて相談できる体制となっている。さらに船橋校舎においては学生支援室内にフリースペースを設置しており、気軽に入れる体制づくりを行っている。

就職支援における長所・特色として、就職指導委員会、キャリア支援センターと教職員が密接に連携する組織体制をとり、「技術系」に特化した適切な進路選択・就職活動に関わる指導・ガイダンスを実施している。理工学部で実施している「就職ガイダンス」、「進路ガイダンス」及び「進学説明会」などと有機的に結びつけ、多種多様な切り口から就職・キャリア支援をしている。

また、各学科に配置されている就職担当教員は、先進技術動向の把握、研究室単位による卒業生との密接な連携により、技術職・エンジニア輩出に向けた極めて専門性の高い情報取得と適時適切な学生アドバイスをを行っている。

**【問題点】**

就職支援における問題点として、マイナビなどの就職情報サイトで手軽に就職に関する情報を学生が得られることもあり、コロナ禍を挟み、近年は就職・キャリア支援プログラムへの参加学生に減少傾向が見られ、特に令和5年度は大きく減少したことが挙げられる。上記情報サイトだけでは得られない短期大学部在學生に特化した情報を提供する就職講座等もあるため、大学が企画する講座等への積極的な参加をより促したい。

**基準 8 教育研究等環境**

**1 現状分析**

**点検・評価項目①**

**教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。**

＜評価の視点＞

- ・教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。
- ・学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。
- ・学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。

89 バリアフリーへの対応をしていますか。

[自己評価]

全ての校舎において対応している。

一部の校舎において対応していない。

一部の建物については、バリアフリー化されており、それ以外の建物は建替えや改修工事に合わせて検討をし、委員会等において審議をし、環境整備に向け実行をしていく予定である。現状、敷地内スロープ、車椅子対応エレベータ、多目的トイレ及び点字ブロック等が設置されている他、各棟に手摺り設置工事を計画している。

その他回答

90 施設、設備等の安全・衛生の確保に取り組んでいますか。

[自己評価]

全ての校舎において対応している。

一部の校舎において対応していない。

その他回答

91 施設、設備等の維持及び規定に基づいた管理をしていますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。  
 一部の校舎において対応していない。  
 その他回答

㊹ 学生や教員に対し、ネットワーク環境やICT機器に関する技術的な支援をどのように行っているか記述してください。

ICTを活用した教育支援及びネットワークシステムの発展を図り、本学部の教育・研究の推進に寄与することを目的に設置している情報教育研究センターが中心となり、ネットワーク環境やICT機器の整備を図っている。ネットワーク環境については、オンライン授業等で重要性を増しており、セキュリティ・接続しやすさ・高速化・大容量通信等の向上を図る計画を立案し、順次整備を進めている。また、コンピュータ演習室について、授業で使用していない時間は学生が自由に利用できるよう開放しており、レポート等作成が可能となっている。学生に対する技術的な支援として、入学初年度のガイダンス期間中に情報センターガイダンスを実施し、ネットワークへの接続方法や履修登録システムや学内ポータルシステムの利用方法等を説明している。

また、教職員向けにはオンライン授業・イベントのオンデマンド配信等に対応するための撮影機材等を配備したICT支援室を設置している。

㊺ 学生の自主的な学習を促進するために、どのように環境整備をしているか記述してください。

「パワーアップセンター」を設置している。英語・数学・物理・化学に不安や苦手意識のある学生向けに授業形態の「基礎講座」、1対1での「個別指導」及び学生1名～数名と英語講師1名での「English Lounge」を開講している。

このほか、図書館内の自習スペース及びリーディングルームを設けており、また、コンピュータ演習室の利用を認めるなど、個人又はグループでの学習を可能としている。

㊻ 学生に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

コンピュータやインターネットが発展した情報社会の中で、両学科に1年前学期設置科目として「情報リテラシ」を設置している。選択科目であるが、理系学生として全員が履修するよう指導している。

また、本部で策定した「日本大学情報管理宣言」は毎年4月に配布するとともに、履修要覧「キャンパスライフ」等の印刷物に掲載し、周知を図っている。

㊼ 教職員に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

本部で策定した「日本大学情報管理宣言」は教職員向けに毎年4月に配布するとともに、各種印刷物等に掲載し、周知を図っている。

また、情報教育研究センターが情報管理の徹底、情報セキュリティの強化を図るために「持ち出し情報機器対策ガイドライン」を作成・周知するとともに、「Emotet」等のマルウェア感染防止のための不審メール受信に対する注意喚起を教職員向け回覧で行う等の対応を行っている。

### 点検・評価項目②

図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・ 図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。
- ・ 図書や学術情報資料の利用促進するための取組を図っているか。
- ・ 図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。

96 図書や学術情報資料の利用促進のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

学生及び教員が閲覧・検索が行えるように、電子ジャーナルの契約をしており、また、学生及び教員の要望による学術本や雑誌の購入も行っている。

97 司書有資格者の人数を記載してください。

専任職員：1人、臨時職員：0人、派遣職員：0人、業務委託職員：9人

98 図書館分館独自の取組について記述してください。

教員の推薦による図書に推薦コメントを添えた展示や新入生を対象としたインセンティブの実施などを行っている。また、学生参加型の選書ツアー等の開催や、最近では、隈研吾展など工夫を凝らした取組を行っている。

### 点検・評価項目③

研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

<評価の視点>

- ・ 研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分にいき、各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給、研究室の整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のための仕組みの整備等）。
- ・ 研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取組を行っているか。

99 外部資金獲得のために、どのような学部等独自の制度や取組があるか記述してください。

毎年、科研費審査経験者等による外部資金獲得説明会を開催している。本部が全学を対象として科研費申請講演会等、外部資金獲得に係る説明会を実施する年度（令和5、6年度）においては、併設の理工学部との共通開催として扱っている。

学部と共通の取組とする助成金として、競争的研究費（理工学研究所外部資金獲得（スタートアップ）支援研究助成金，理工学研究所外部資金展開（ステップアップ）支援研究助成金）により，外部資金獲得及び更なる上位種目等の獲得の支援を実施している。

科研費，受託研究及び研究奨励寄付金の受給者に対して，その受給状況に応じて外部資金獲得に対する採択奨励費を支給することにより，外部資金獲得の活性化を促している。

⑩ 研究時間確保や研究専念期間保障のために，どのような制度や取組があるか記述してください。

大学の取組である「専任教職員海外派遣規程」に基づく海外派遣研究員の一区分である派遣期間 15～35 日に準じて理工学部海外派遣研究員として，学術の研究，学術の国際交流及び大学の発展に資するという目的の下，海外において専門分野の研究，調査等に専念することを可能とする機会を確保している。

⑩ 若手研究者育成のために，どのように取り組んでいるか記述してください。

併設の理工学部と共通の取組として，若手研究者の育成と研究活動の充実を図ることを目的に定めた大学の規程に基づき，理工学部において研究プロジェクトの実施に当たり，内規を定め，RAを受け入れる体制を整備している。

⑩ RAやPDを置いている場合，どのようなガイダンスや研修を実施し，どのような業務をさせているか記述してください。

RAやPDが置かれる場合は，専任の研究者と共通の内容であるコンプライアンス教育及び研究倫理教育の受講を実施する。業務については，受入研究者の指導・管理の下，参画プロジェクトにおける役割分担を担う。

⑩ 学生に対して，研究倫理を遵守させるために，どのように取り組んでいるか記述してください。

両学科共通の総合教育科目に「技術者倫理」を設置している。選択科目であるが，理系学生として全員が履修するよう指導している。その他，各学科でコンプライアンス，研究倫理を学ぶ専門科目の設置又は授業内における指導を行っている。

#### 点検・評価項目④

**教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。**

＜評価の視点＞

- ・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩ 研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

併設の理工学部と共通の取組として、研究室の整備において、各府省から受け入れた競争的資金（科学研究費助成事業等）の間接経費の理工学部における使用分を、管理部門等及び研究部門とで原則各 50%ずつに配分して使用している。管理部門等においては、学部全体の研究環境改善等のための経費に充て、研究部門においては、当該競争的資金の採択を受けた研究者ごとに配分し研究者自身の研究環境づくりのための経費に充てている。特に後者の研究者個人への配分により、個別の環境に即した自由度の高い環境整備・改善に資する取組として実施している。

図書館について、図書委員会及び図書館事務課が中心となって、大学図書館として目指す研究等環境整備を行うために、電子資料の利用環境及び蔵書構成の充実を図り、また、バリアフリーの促進及び車いすリフトの設置に対する予算の確保や学生のニーズに基づく利用時間の延長、使用上の衛生的配慮を含めた利用環境の適正化等、利用者に対する利便性を高めるための環境整備を行っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

学部と共通の取組として実施する助成金による外部資金の獲得の活性化を図ることに加え、各府省から受け入れた競争的資金の間接経費の研究者への自由度の高い配分をすることにより、研究者の外部資金獲得に対する意識向上に結びついていることが挙げられる。

郊外型のキャンパスとして、広大な敷地を有しており、実験・実習・実技を行いやすい環境である。また、理工学研究所の研究施設を利用することが可能であり、機械工学や建築学などの分野の学生及び教員にとっては充実した環境であると考えられる。

図書館については、船橋校舎のみで約 22 万冊の図書があり、さらに、併設の理工学部（駿河台校舎）の蔵書も利用できることから、合わせて約 48 万冊の利用が可能である。短期大学部（船橋校舎）の学問分野に関する専門図書だけではなく、小説やスポーツ系の雑誌等も置いてあり、幅広いジャンルから本を選べるができる。また、OPAC検索という図書館蔵書検索システムもあり、書名・著者名あるいは出版社名を入力すれば、どこにその求めている本があるかすぐに分かる。

特色ある取組として、学生により構成される LA (正式名称: Library Associate) を置いている。この LA の提案を基に、映画上映会や国立国会図書館見学及び神保町での古本屋巡り等の企画を実施している。また、年に 2 回学生選書ツアーというイベントを実施し、東京の大型書店へ行き、学生の目線で選んだ本を蔵書している。このイベントは選書するだけでなく、学生同士の交流を深めることを目的とし、交流会も併せて開催している。

### 【問題点】

校舎内建物の老朽化やバリアフリー対応が挙げられる。特に図書館は、昭和 46 年度に建造され 50 年余りの歳月が経ち、かなりの老朽化が目立つ。令和 2 年度に耐震補強工事を実施したものの、学生の長時間の利用に鑑み、環境面での改善も望まれ、中でも 1 階の北側に面している視聴覚室等は、湿気も多くカビが発生するなど、施設の利用頻度はあまり多くないのが現状である。

## 基準 9 社会連携・社会貢献

### 1 現状分析

#### 点検・評価項目①

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施してい

ること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

<評価の視点>

- ・学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取組を行い、社会に対し周知しているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決等に貢献し、学部等の存在価値を高めることにつながっているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知させる取組を行っているか。

- ⑩ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために、情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設しているか。

[自己評価]

- 特設サイトを開設している。  
 特設サイトを開設していない。  
 その他回答

#### 点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

- ⑩ 社会連携・社会貢献に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献活動の点検・評価方法としては、これまでは各部署(学科・委員会・課等)において事業を計画・実施していた。今後、事業の実施後、各部署において参加者・相手方のニーズ、成果等を把握するべく情報収集を行い、事業の改善・向上の取組に向けての支援を理工学部地域連携推進委員会として取り組む。改善・向上を図った事例としては、図書館公開講座において、参加のための利便向上を図るため、ICTツールを活用して対面型・オンライン型のハイブリッド方式で開催している。今後の改善点として、短期大学部（船橋校舎）を含む理工学部全体として社会連携・社会貢献の点検・評価を行う方法等を検討しており、理工学部地域連携推進委員会において、各部署(学科・委員会・課等)が社会連携・社会貢献に関する方針に沿うどのような活動を行っているのかを整理し、実施状況の把握及び効果の実態について、内部質保証推進委員会に報告することで情報の共有化を図ることとしている。

また、理工学部学会・協会賞等受賞者表彰制度に基づき、国内外の学会・協会等の学術団体からその優れた研究業績や功労によって表彰された者等を、毎年度理工学部として改めて表彰することを通して、諸活動の活性化及び資質向上を図っている。

## 2 長所・特色・問題点

### 【長所・特色】

理工学部・短期大学部（船橋校舎）としての社会連携・社会貢献に関する方針を定め、短期大学部（船橋校舎）を含む理工学部の教育研究活動における成果を還元すべく「学外機関、地域社会等の連携」を各部署(学科・委員会・課等)において積極的に推進している。社会連携・社会貢献の方針に基づく活動について網羅的に整理し、ホームページにて情報発信を行い、情報を分かりやすく発信することで学内外にわたって活動の共有を図る。

また、理工学部学会・協会賞等受賞者表彰により、社会連携・社会貢献の取組状況が明確化され、各研究者の同取組への意識向上が期待される。